

豊岡市教育委員会 行政視察研修（2023年5月26日）事前質疑への回答

※鳥取市役所及び江山学園での説明の中で回答

1 義務教育学校とされた理由・考え方

鳥取市には4つの義務教育学校がありますが、義務教育学校として開設するに至った考え方等について教えてください。

- (1) 施設一体型の小学校・中学校ではなく、義務教育学校を選択された考え方について教えてください。

⇒ 地域住民で組織する検討組織「教育を考える会」で、地域の目指す、地域にあった小中一貫校のあり方を検討された結果、義務教育学校を選択されたものです。

- (2) 義務教育学校の導入により可能となる教育内容について教えてください。

また、義務教育学校とすることにより生じる課題等があれば教えてください。

（課題がある場合、課題解消のための工夫等もあわせて）

⇒ 9年間を使ってよりダイナミックな取組みができること、より系統性を考えて指導することで教育効果を高める工夫ができることが義務教育学校の強みです。

上級生が下級生の良いモデルになる、小中学校の教職員間でお互いの良さを取り入れる意識が高まり、指導力の向上につながったこと等のメリットがあります。

課題としては、同学年の児童生徒数は変わらない、部活動の選択肢は増えないなどがあり、横のつながりよりも縦のつながりを増やすこと、地域の方とのかかわりを増やすことで補っています。

2 教育課程

- (1) 江山学園の、学年段階（ブロック）の区切りについて

ア 「4・3・2」制とされた理由について教えてください。

⇒ 高学年から自己肯定感や自尊感情の低下がみられるという生徒指導上の要請、学習内容や量が高学年から増えるといった学習指導上の要請、教科担任制で複数の教員と関わるのが高学年児童にとって自己の伸長につながるなど、などが江山学園の児童生徒の実態や目指したい方向と重なることから、4・3・2制が選択されました。

イ 「4・3・2」制の指導体制（教科担任制等）と特徴的な取組内容（5・6年生の50分授業等）について教えてください。

⇒ 下の学年は学級担任を中心とした指導、学年が上がるほど教科担任制を基本、としており、そこを上手くミックスしてより教育効果を高めるのが江山学園の特色のひとつとなります。

中学校籍の先生が実技教科を中心に専門性を生かした教科担任として1～6年生を指導し、小学校籍の先生には7～9年生の教科担任として指導しています（通称：相互乗り入れ授業）。

4年生までは45分授業、5年生以上は50分授業としており、時間割が少しずつずれてくるので、休憩時間等を工夫して時間がそろうタイミング（チャイム鳴動）を設定しています。5年生の50分授業は、それほど心配することはありませんが、5年生の前期までは45分をベースとして少しずつ慣らしていくといった配慮は行っています。児童からも特に苦しいという声は聞いていません。

ウ 上記の取組によって感じられている効果等について教えてください。

⇒ 相互乗り入れ授業で小学校の先生に指導をおこなってもらっています。学年が大きくなるほど学力の差が開いてきますが、小学校の先生の特徴である丁寧できめ細かい指導により、どの子にも力をつけたいというコンセプトで実施しているものです。

(2) 江山学園の「江山かがやき科」の取組内容について教えてください。

(他の義務教育学校の特別な科目についても簡単に紹介をお願いします)

⇒ 総合的な学習の時間と学活の時間を使って、「ICTを活用した探求的な学び」に取り組んでいます。総合学習の場合は、地域のことを調査・体験してまとめて終わることが多いですが、探求学習はそこを出発点として、課題を見つけて課題解決のために自分達はどんなことができるのかを考えています。(鳥取市立の)他の義務教育学校もおおむね同様の取組みです。

(3) 教育課程を検討するにあたって、どのような組織で協議をしてこられたのか教えてください。(組織の体制、会議等の回数、協議の経過・内容等)

⇒ 設立準備委員会の中の部会(すごい!学校創造部会)で協議しました。先に開校している市内の義務教育学校3校と意見交換をするなどして、主に第3回から第5回までの部会で検討されました。

部会の中では、5年生に一番配慮が必要だと感じ、「5年生が上級生を見て成長するのが良い」、「学力・体力・心の発達状況から考えて5年生を一番にフォローしたい」などの意見が出され、その後の設立準備委員会で4・3・2制とすることが決定されました。

3 施設整備について

(1) 設備、配置等について、大切にしたい考え方や工夫したこと、施設の一番の特色や「ここが良かった」という部分について教えてください。

⇒ 敷地に比較的余裕があったこと、既存の教室棟が建築から55年が経過し長寿命化工事の対象となっていたこと、既存の施設を最大限に活用することで最小限の増築で義務教育学校としての環境を整備できることの主に3点から、旧美和小学校の校舎を活用することとなりました。

学園としての一体感、異なった学年間の交わりを一層深めるスペースの確保、教職員の動線、気軽に相談できる環境の確保、防災機能を兼ねた学校施設など、教職員・PTA・地域住民と一緒に検討しました。普通教室棟にあった音楽室や理科室

などの特別教室を後期課程（7～9年生）の普通教室に改修して、普通教室棟に全学年の普通教室を設置しています。

新たに増築した特別教室棟には、2階まで吹き抜けのプレゼンルームに大型スクリーンや最新の音響機器を整備して、児童生徒が学んだことを発表・発信できる環境を整えており、江山かがやき科における ICT 活用の取組みをさらに進めることに寄与しています。同じく1階にはキッチンを備えたコミュニケーションルームを新設し、再編によって物理的に距離が遠くなった地域住民との交流の場としても活用しています。

(2) また、「ここはこうした方がよかった」など、改善・追加すべき施設の機能等があれば、教えてください。

⇒ 回答なし

(3) 小中学校で共有できる特別教室等はあるか。また、共有するための工夫について教えてください。

⇒ 回答なし ※特別教室は各科目とも1室のみ。

(4) 小・中とも別々に配置が必須と考える教室等があれば、教えてください。

⇒ 回答なし

4 教員配置

(1) 教員の配置人数とその考え方について教えてください。

⇒ 義務教育学校として1学校の基準で職員を配置している。ただし、開校当時は様々な課題が生じるであろうということで、事務職員と養護教諭を1名ずつ加配して各2名配置しています。

(2) 副校長、教頭の配置人数と役割分担について教えてください。

⇒ 全ての義務教育学校に副校長を1名加配している。校長、副校長、教頭については、それぞれの学校籍（小学校・中学校）を考慮してバランス良く配置している。

5 学校行事、部活動等

義務教育学校としての学校行事、部活動等への工夫について教えてください。

(1) 入学式、卒業式、その他進級式等

⇒ 卒業式は9年生のみですが、ブロックごとの最終年度にブロック修了式を実施しています。卒業式と同じように保護者にも来てもらい、修了証書を渡します。

(2) 運動会、文化祭、学習発表会等

⇒ 縦割りグループ、異学年交流を重視した運動会を実施しています。自主性をいかし、1年生から9年生までの児童生徒が関われる競技を、児童生徒自らが考えます。

文化祭では、江山かがやき科で学んだ事を発信する場として実施しています。低学年は演劇形式、中学年は学んだことをまとめて発表、高学年は保護者や地域住民を呼んで双方向のプレゼンを実施する、など発達段階に応じて発信しています。

(3) 修学旅行等の宿泊学習

⇒ 宿泊行事については、5年・6年・7年・9年生で実施しています。

9年生は修学旅行として2泊3日に関西方面に、5年生は県内の船上山（少年自然の家）で1泊2日、6年生は研修旅行として1泊2日で奈良京都方面、7年生は氷ノ山に研修に行きます。

統合前のそれぞれの小中学校の宿泊行事を引き継いで実施しているものです。

(4) その他、学年段階（ブロック）を超えての交流、活動の機会等

⇒ 同学年で複数クラスを編成することができないので、縦割り活動で異学年と関わりながら主体的に活動することを目指しています。

(5) 部活動は何年生から参加とされているか

⇒ 部活動は7年生以上が参加します。

体験入部を6年生の1月以降に実施しており、仮入部なしで4月から即入部が可能としています。

6 その他

(1) 「中1ギャップ」の解消につながったような事例があれば教えてください。

⇒ 回答なし

(2) 学校運営協議会（コミュニティスクール）、地域学校協働本部との学校運営の具体的な連携内容について教えてください。

⇒ 回答なし

(3) 学童保育（放課後児童クラブ）の有無（有の場合はその配置）

⇒ 新築した特別教室棟の1階に配置（施設見学にて）

(4) 制服について

⇒ 7年生以上がブレザータイプの制服を着用。6年生までは私服としています。

(5) 前期課程児の放課後の過ごし方について（遊ぶ場所等）

⇒ 回答なし